

大 唐 三 品 聖 教 序

太宗文皇帝制

弘福寺沙門懷仁集書

將軍王羲之書



蓋聞二儀有陰陽覆載
含生四時無形晉寒暑者

春生夏長秋收冬藏

(図版②)右二行半明拓

左・二行半宋拓

「落ち穂拾い記」③

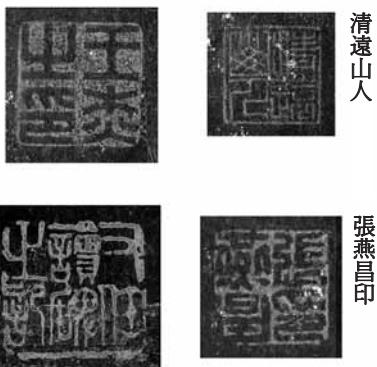
「集王聖教序碑・宋拓本」(下)

(図版③)

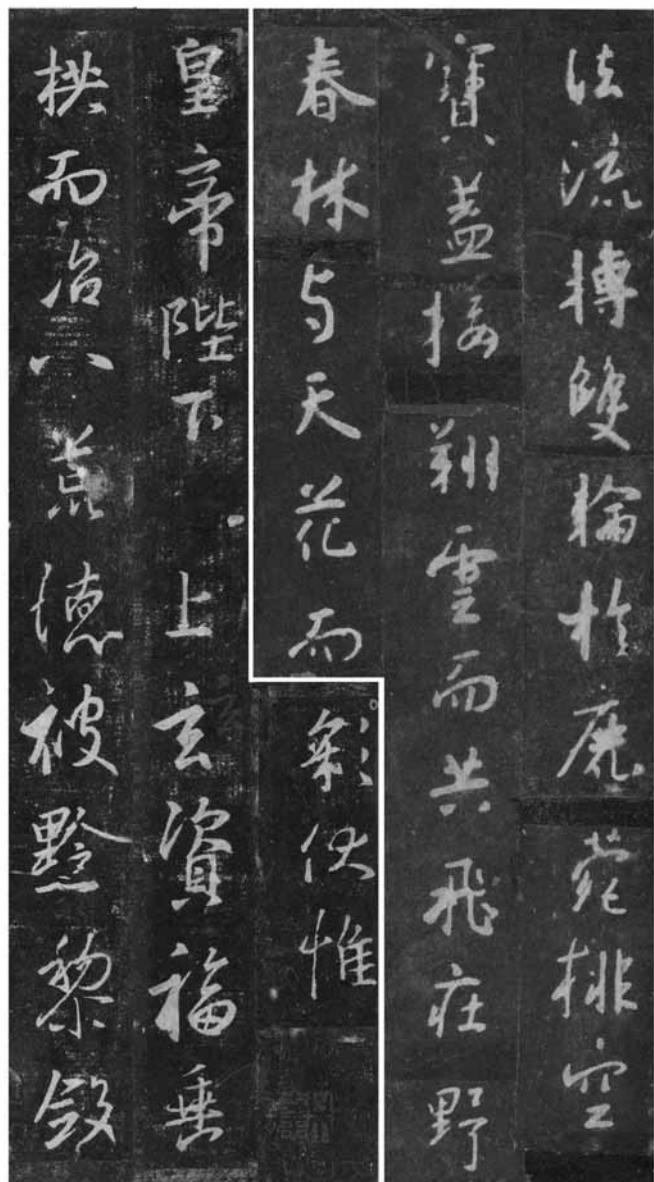


在々処々神物護持

(図版④)



右任詠碑之記



届いた拓本を再度、晚翠軒や一玄社などの各種の影印資料と対照比較した。間違いなく宋拓である。最初から認識していたところであるが、中程の六開(12頁)300字ほどが、明時代の拓本で補われてあった。拓調、拓墨もあるが、拓出された文字の点画の鋭さが全く異なり、茫洋とした点画である(図版②)。全体の15ペーセントほどが明拓で、残りの8割余りは、間違いなく宋拓であった。書聖・王羲之の書を集字して制作された名碑の宋拓を手にしたことは、嬉しかった。最初目にしたときは、普通の板表紙で、題簽に「旧拓懷仁集王羲之聖教序 丁丑冬至 李正峰題」とあった(20年ほど前の題簽である)。跋文もその他の題記も無く、ごく普通の装幀であったから、見逃されたのであろう。入手してしばらく気止め無かったのだが、隸書で「聖教序」と書かれた小さな内題簽が、一葉貼り付されてあった。その隸書の3文字の下方に皮紙の繊維の雜物の陰に汚れのような小さな文字に気が付いた。「宋拓神品」と更にその下にある印影を何とか判読した。「在々処々神物護持」である(図版③)。貴重書の永く伝来しますようの意であるうか。明確に先人は、宋拓と認識していたのである。更に幾つかの捺されている鑑藏印に目を向けた。「芥舟鈐印」「清遠山人」「洪氏詒孫」「張燕昌印」「文魚」「金粟山人」「燕昌」「飛白樓」「玄之又玄」「王杰」「葆淳」「右任詠碑之記」「憲齋」「息園」等の印を確認できた(図版④)。乾隆から嘉慶年間に活躍した飛白体をよくした張燕昌(1738~1814)の印が多く、近代の書に優れた于右任(1903~1964)等の印もある。途中で、一部が失われ、補修され、永い歴史を経てきた書物であることを物語っている。大切にしたい碑帖の一つである。

伊藤滋(書斎名・木鶏室)

書道芸術院 令和の群像 (2022)



第71回書道芸術院展「麟慶詩」



岩垣若翠

「純ちゃん、将来は習字の先生になると

いいね」これは私が小学生の頃、祖父の姉に言われた言葉である。誉められて伸びる子供だったと思う。母の勧めで小学校2年

生から当時鈴木翠軒派の田熊琢磨先生の教室へ通い始めた。中学から高校までは山本

盤翠先生、高校卒業後は岩垣翠城先生と3人の先生の指導を受けた。高校3年生の時、

全国学生書道展で「書道芸術院会長賞」を頂き、初めて上京した。広い会場で目にし

た多くの作品に感動したことは、今も鮮明に記憶している。一緒に上京してくれた母

からお祝いにと、当時(50年前)一万円の羊毛の長峰筆を買ってもらつたが、もつたいなくて何年か使うことができずにいた。この頃から書に対して真剣な気持ちに変わり

始めたように思う。

20代前半に書法研究集団「蘭芝会」のメンバーになった。月1回の定例会で古典のレポートを各自が発表し、年1回の展覧会

で古典臨書と創作を出品することを30年余り続けた。

これ以降も様々な古典を臨書した中で、王羲之はもちろん、王鐸・顏真卿・何紹基

は好んで臨書していくと思う。この事は後の作品制作に大いに役立っている。

毎日書道展に初めて入選したのは、「一字書」だった。恩地春洋先生を講師にお招

きして、小学校の体育館で開催された講習会に参加した。大きな筆で身体全体を使い

淡墨の滲みを出すことが難しかった。この日受講生全員が見ていてる中で書く緊張感が、ずその場で土下座をして謝罪し、漸く許しを得ることができた。先生からの教訓は「一日として筆を置くべからず」だった。

その日以来猛省し、今日まで休むことなく継続できていることは、先生のお陰であり心から感謝している。今は亡き師匠の一番心に残る思い出である。

現在は、書道芸術院山陰支局長の名越蒼竹先生の教室で、書友と共に切磋琢磨している。博識である名越先生から書道以外の多くの事も学ばせていただけていることは、本当に有難く幸せな事である。

今後は指導している生徒たちが、全国学生書道展で育った私のように「書の道」を目指してくれる事を願い、微力ではあるが研鑽を積んでいきたい。

思いがけない作品を生み出すことを知ることになった。

書のひろば

理事長 下谷洋子

第73回毎日書道展開幕
会員賞宮崎芳玉氏に

第73回毎日書道展開幕

第73回毎日書道展開幕

で

て

る

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

現代詩文書基礎基本講座(27) 小竹石雲

【臨書から現代詩文書への展開】

①枯樹風のひらがなの表現方法



②枯樹風の現代詩文書



「あをによし奈良の一夜の菖蒲酒」 深見けん二句

- ・文字の大小の変化を自由につけ楽しんだ。
- ・発展的臨書から一気に書いた。渴筆の多彩な線に響きを求めた。

- ・古典に秘められた格調を落とさぬようにして理性が勝り、少々つまらなくなつた。
- ・古典の解釈と詩文の解釈の一致は至難の業。

前衛書基礎基本講座(3)

千葉蒼玄

○前衛ということ
前回、漢字について、秦の時代

ただの模写で終わってしまうのではないか。

(篆書)からすれば、隸書はスマートな斬新な前衛的書体であると述べたが、篆書から隸書への流れから前衛を考えてみたいと思う。

篆書から隸書の変化

漢字は縦文字(甲骨文)から始まって、篆書、隸書、楷書、行書、草書という書体に変化した。今はこの五体が書体として定着しているが、中国四千年の歴史の中では八体とも十体とも呼ばれ、歴史の中で消えていった書体もあったはずである。

篆書の字形が、時代的欲求(單純化、速書、美的価値)によりさまざまな書き方に変化した。これが前衛的創作(既成の概念や形式にとらわれず、先駆的・実験的な表現を試みる)である。

現在の私たちから見れば、当然の書体(表現形式)であっても、当時の人たちからすれば斬新な表現だっただろう。

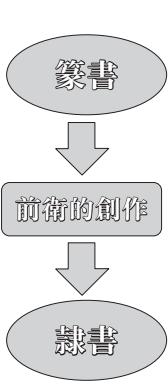
前衛作品も同様で、様々な表現を試みてはいるが、残るものもある。れば消え去ってしまうものもある。だが“芸術とは先人の残した鎖に、もう一つの輪を継ぎ足していくものである”という言葉のように、新しい何かを追い求めなければ、



色々な書き方が生まれた



隸書として定着



令和4年度 新審査会員作品

井ノ口春峰（運）・柄山 明珠（漢）・清水由紀子（か）・高山 裕子（か）

「博学而篤志」

井ノ口春峰

（千葉）



清水由紀子
(東京)

「春は花」

高山 裕子
(神奈川)

「わがこころ」



この度は審査会員にご推挙
頂きありがとうございます。

いつも温かくご指導くださる
石井明子先生をはじめ玉松会
の先生方、素敵な書友の皆さ
まに心より感謝申し上げます。
今後も古典をはじめ多方面
から学びを深め、美しいかな
書の表現を探求して参ります。
(由紀子)

近くの書道同好会に通い始
めたことが縁で、書を学ぶ樂
しさを知ることができました。
三浦扇銘先生、鄭銜先生をは
じめ諸先生方にご指導いただ
き、また、よき仲間に恵まれ
ここまでくることができまし
た。心より感謝申し上げます。
新たなスタートを迎えた今、
自分を見つめ直し、広く書と
真摯に向き合い研鑽を重ねて
参りたいと思います。

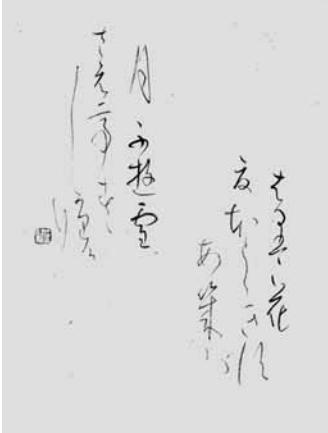
(春峰)

柄山明珠
(長野)

「花」



この度は審査会員にご推挙
いただき、小浜大明先生はじ
め諸先生方に、心から感謝申
し上げます。何分にも未熟者
であり、ようやく深淵なる書
の世界の入口に立ったところ
だと自認しています。
自然豊かな地に住まいし、
四季折々の花々にも励まされ、
なお一層精進する所存です。
(明珠)



この度は審査会員にご推挙
いただき誠にありがとうございます。
熱心にご指導くださる下谷洋子先生、書泉会の諸
先輩方に深謝申し上げます。
自分自身で創作する難しさ
を日々感じております。先生
の教えである古筆から学ぶこ
との大きさを忘れず、今後も
精進して参りたいと思います。
(裕子)

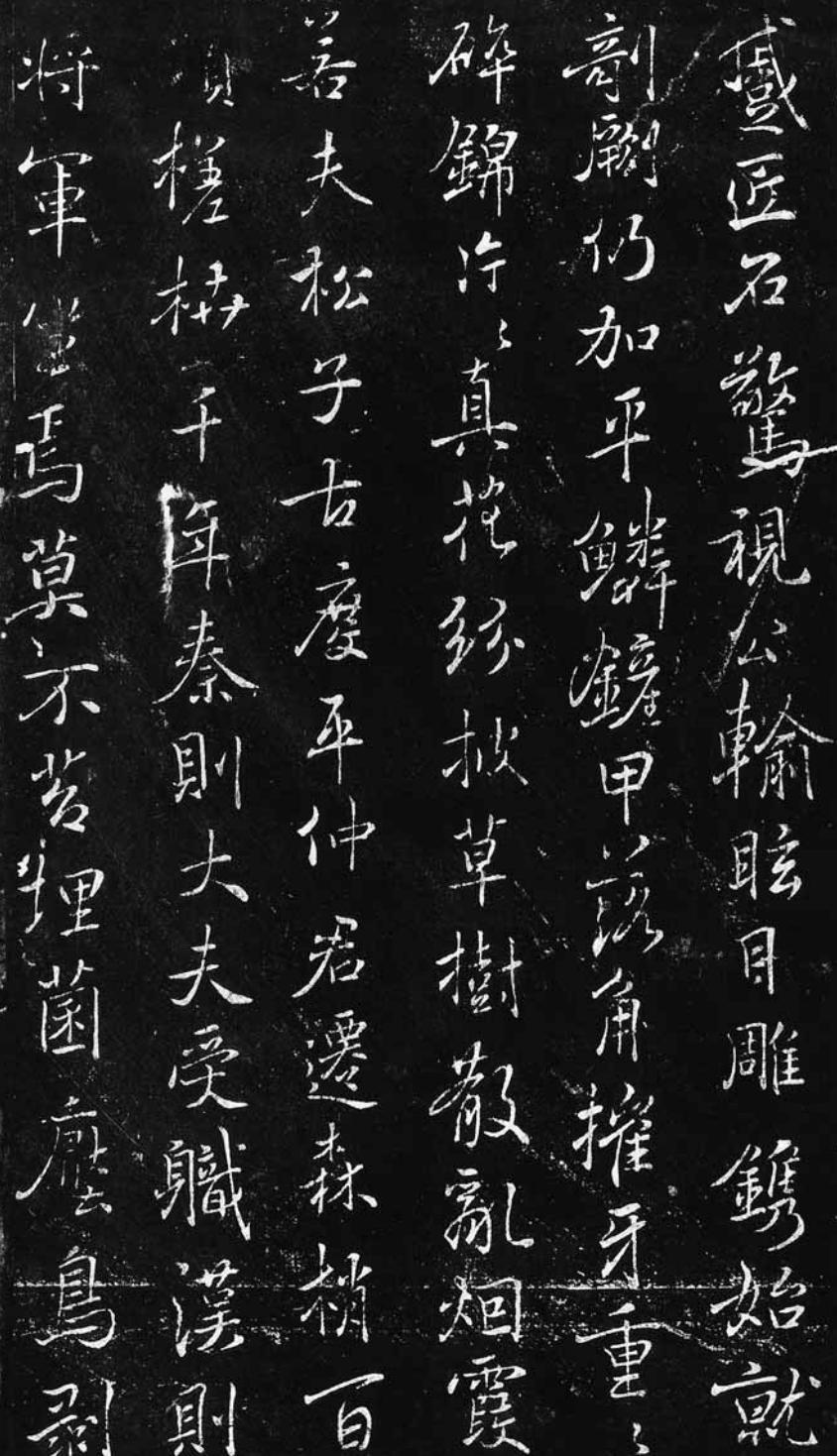
枯樹賦

(唐 630年) ②
褚遂良

〈解説〉枯樹賦の書風は、王羲之の書法を継承しながらも、独自の境地に至っており、奔放でゆるぎない造形感覚と軽妙で情緒豊かな筆致が魅力である。字形は、右上がりの菱形が多く、縦長で胴がふくらんでいて、懷が大きい。一字の中に偏と旁、冠と脚などの大きさや位置に変化をつけながら、太い線と細い線を組み合わせて、

一字構成にたくみなバランス感覚を見せていく。線質はねばりが強く、弾力に富んでいるが軽やかである。また、俯仰法(筆を持つ掌を下に向け俯したり、上に向か仰いだりさせて書く方法)などの用筆が多く見られる。筆は抑揚緩急の変化をつけながら気脈の貫通に留意して、空間の運筆を大きくゆっくり運ぶことが大切である。

(編集部)



(掲載図版・75%に縮小)

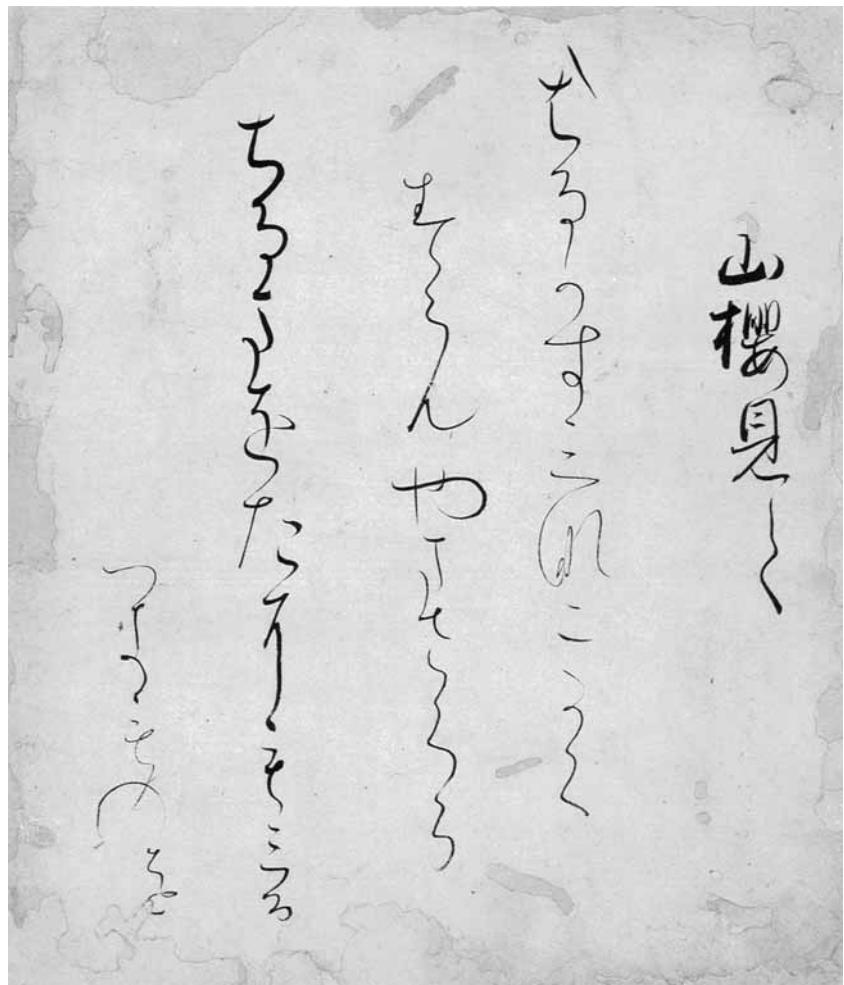
※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) (B. 小品の部—半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

蹙。匠石驚視。公輸眩目。雕鎧始就。刻勦仍加。平鱗鎧甲。落角摧牙。重々碎錦。片々眞花。紛披草樹。散亂烟霞。若夫松子。古度。平仲。君遷。森稍百橫枝。千尺。秦則。大夫受職。漢則將軍坐焉。莫不若理園庭。鳥羽。

槎枒千年。奏則大夫受職。漢則將軍坐焉。莫不若理園庭。鳥羽。



(藤田美術館蔵)

山櫻見

よみ
山櫻見て
はるがす
すらんや
ちるまをだ
べきものを

（解説）升色紙は、伝紀貫之筆「寸松庵色紙」、伝小野道風筆「絶色紙」とともに「三色紙」といわれている。鋭利な穂先を使いこなした暢達した線、リズミカルな連綿、効果的な墨継ぎで余白の美しさが強調されている。さらに明るく穏やかな線とともにその散らし書きは変化に富み、さりげなく散らすもの、大胆に散らすもの、中には行を絡ませて文字を重ねて書くものなど、極めて巧妙な手法を見せている。筆者を藤原行成と伝えるが、その書風と料紙装飾からみて11世紀後半の書写と推定される。

（編集部）

※掲載図版は原寸

※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましよう。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）を縱長に使用）半様紙は半紙サイズに切って使用のこと。
別紙を裁断して貼付も可。〈上記古筆の掲載部分を書く〉

特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
B. 小品の部=半切 $\frac{1}{2}$ 以上半切以内、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可（A・B縦横自由）
〈いずれも上記の掲載部分以外も可〉

辻元大雲

雲影千峰合
(うんえいせんぽうが)



半紙5文字表現は一般的に3文字2文字の2行構成となります。が、文字の大小、潤渴の変化で紙面に大きな動き、リズム感を生むことができます。今回は行草を交え、動きある表現を意図しました。

羊毫中長鋒による線質の変化がポイントです。「千」の1画目は右上から入ります。左から右へ引くと「干」となります。ご注意を。

漢字規定秀級以下【九月十五日締めきり】用紙半紙普通判

半田藤扇選書

半田藤扇選書

習い方解説(五)

樹陰讀書 「現代書作必携」
(樹陰に書を読む)

褚遂良晩年(58歳)の書である
「雁塔聖教序」の書法に挑戦して
みました。

線質は、抑揚と粘りがあり、緩
急・強弱の変化に富んでいます。緩
細身でありますながら大ぶりの悠然と
した書風です。用筆のバネを利か
せてください。

初唐の代表的な楷書として名高
く、褚法・虞法・歐法とそれぞれ
に大きな特徴を有している点でも
史上で何かと比較されます。注目
を浴びる作品群ではないでしょうか。

※羊毛筆を使用

〈参考作品〉



書体=楷書

樹陰讀書 よみ(樹陰に書を読む)



平川峰子

ぬばたまの夜の更けゆけば久木生ふる
清き河原に千鳥しば鳴く
(山部赤人「万葉集」)

「夜が次第に更けてゆくと久木の
生ふる清らかな川(河)原で千鳥が
しきりと鳴いていることだ」の意。

山部赤人(生没年未詳、奈良時代
の宫廷歌人)は聖武天皇に仕え、各
地への行幸に従い名歌を多く残した。

かなの散らし書きの構成は古筆の
継色紙や寸松庵色紙を参考にする
良いでしょう。それをアレンジして
さまざまに変えていくことも楽しい
作業です。今回は一行の長さを変え、
行間の広さを工夫し、長い行はまっ
すぐではなく少し右に倒しながら書
いてみました。

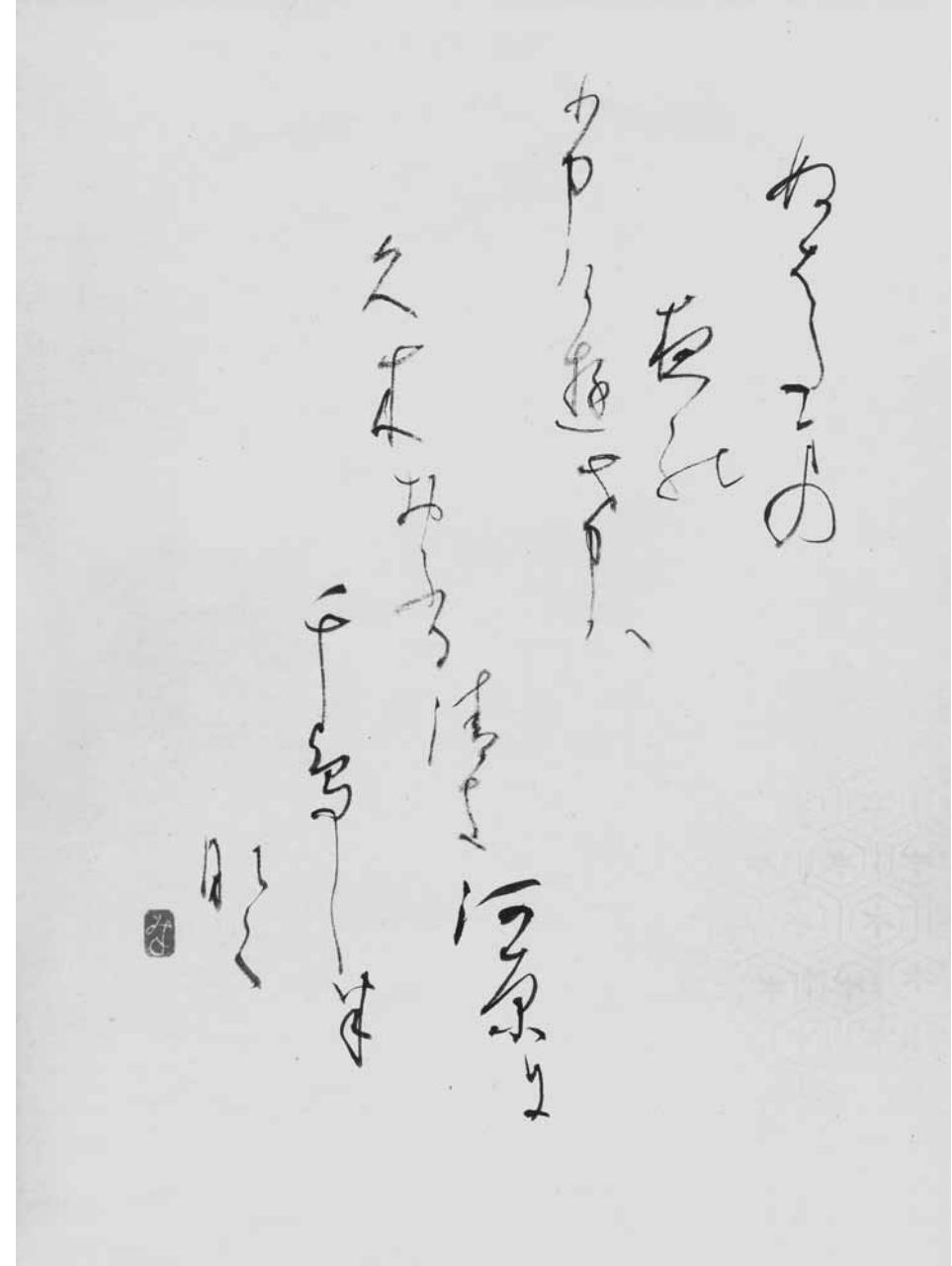
構成で余白を考え、墨色で濃淡と
潤渴、文字の大小、線の太細、連速
など変える要素はたくさんあります。
多様な試作をして表現してみてくだ
さい。

*料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。

よみ方

ぬば(者)た(多)ま(万)の夜(能)更(布)け(介)ゆ(遊)け(希)ば(八)久木生(お)ふる
清き(支)河原に(尔)千鳥しば(半)鳴(那)く(久)

創作



かな規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 か(司)みな(那)づき(支)ふりみぶらす(須)みさだめ

なき(文)しぐれぞ(所)ふゆのは(八)じめなりける

習い方解説 (二)

小島孝予

かな条幅規定【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島孝予選書

いつくにも今宵の月を見る人の
心や同じ空にすむらん
(藤原忠教「金葉集」)



かなの流麗さを表現するには連綿がとても重要です。連綿は実線による連綿と実線によらない意連(空中で連綿)があります。連綿は短めを心がけ、不自然な流れにならないよう文字を選び連綿します。また意連によって終筆の流れを受けて空中から次の1画に入ることで、流れが続きます。すっきりとした連綿で流麗さを表現しましょう。

*タテ形式に限る

よみ方 い(以)づ(徒)く(久)に(尔)も今宵の月を見(美)る(留)人の
心(こゝ)裏(や同)於(な)じ空(曾羅)に(尔)す(寸)む(武)らん

創作

漢字条幅規定 初段以上【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

種谷 萬城選書

習い方解説 (五)

種谷 萬城

壬戌之秋七月既望蘇子與客泛舟遊於赤壁之下

萬城書

壬戌之秋七月既望蘇子與客泛舟遊於赤壁之下
(蘇軾「前赤壁賦」)

壬戌の秋七月の既望蘇子客と舟を泛て赤壁の下に遊ぶ。)

書体=自由

今月は、波磔のある隸書『八分』で書きました。秦に誕生した隸書は、漢代の正式書体です。起筆は藏鋒、收筆に波勢。特に波磔に装饰的な筆法が見られます。横広の字形、水平・等間隔の横画、転折部は筆を一度引き抜き、改めて藏鋒で入筆します。隸書特有の基本的な書法を理解し、魅力溢れる漢簡・漢碑の名品を学んで下さい。

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【九月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書

習い方解説 (五)

千葉蒼玄

「ここが静謐であれば身体も清涼である」の意。

心 静 即 身 涼

書体=自由

王羲之「集王聖教序」

心 静 即 身 涼
(心 静なれば 即ち身涼し)



蘭亭叙は神品とよばれ「之」の字はすべての字形が変化している。私たちの目には王羲之の字はありふれた字形として映るが、よく観察すると活字と違い均衡な形ではない。わずかに上から下に行くにつながらる。文字 자체がわずかに左にお辞儀をする形といわれるが、これが上品さ

北村白琉

われもともも
物狂ひのこと筆揮ふ
飛沫を画仙の

外囂に及ぼし

雅休のうた 白琉書

大澤雅休は偉大な書家であるばかりでなく歌人でもあり、たくさんの秀歌を遺しています。今月はその中の、揮毫に立ち向かう自らの姿を詠まれた一首を書きました。雅休の活動拠点である平原社の狭い部屋には、全国から弟子たちが訪れ、雅休は「せっかく来たのだから…」とよく揮毫して見せてくれたそうです。

漢字かな交じり文を書く場合、漢字は少し大きめに、かなは少し小さめに書くと全休の調和がとれます。

われもともも
物狂ひのこと筆揮ふ

飛沫を画仙の
外囂に及ぼして

雅休のうた

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「」注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(14.8×10cm)を守って下さい。

葉月 新涼 神奈川県 長野県

葉月 新涼 神奈川県 長野県

三浦 鄭 街

雲の流れもようやく秋めいてまいりました
雲の流れもようやく秋めいてまいりました

(楷書) 葉月 新涼 神奈川県 長野県
(楷書) 雲の流れもようやく秋めいてまいりました

(行書) 葉月 新涼 神奈川県 長野県
(行書) 雲の流れもようやく秋めいてまいりました

基本用語 「葉月」旧暦8月の別称。「新涼」
秋の初めの涼しさ。

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

今月の

ホーリー作品
各部総評 No.734

ペン字部 師範 高橋 雅泉
布置が見事。絶妙な行間余白によつて、作品が立体的に見える。
詩の光景が浮かぶような爽快作。

◎ペン字部總評 全体的に安定した作品が多くた。天地左右の余白を工夫することで、さらに紙面が引き締まります。（孝予評）

ひとづくふたつ
ひとりよりふだい
ひとつそのほうが自然なんだ
妻と並んで枝豆をべる

星野富弘「枝豆」雅泉書

かな条幅部 師範 片岡 照徳
リズムに乗ったバランスのよい作品である。過不足なく快く深さを感じさせる心の置き所は見事。



横書と筆の顔側成書道
近藤信久同美田

前衛書部 特選 中山 麗芳

意表を突きながらも正常感を維持させた力量は見事。これからもどしどし挑戦されたし。

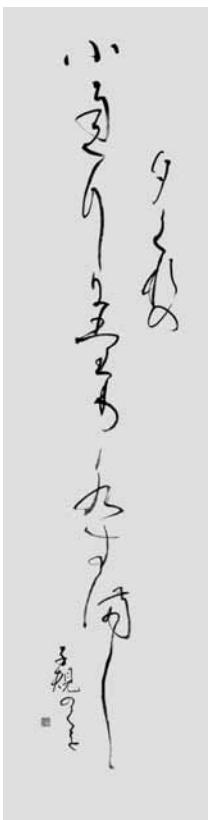
◎前衛書部總評 創意工夫され各自の実力向上が伺え感動。月並みながらさらに努力を願う。（靈香記）

現代詩文書部 特選 佐藤 奎山
自然の脅威を時間を経て今ふと思ふ気持ちが、濃墨で上下に分かれた作品に現れ、心うたれる。

◎現代詩文書部總評 常に作品のモチーフを思い、心動かし創作活動につなげて下さい。（掃雪評）



◎かな条幅部 師範 片岡 照徳
く布置の良くないもの散見。美しい紙面を創るために平素から、古筆を眺め字形の研究を。（明子評）

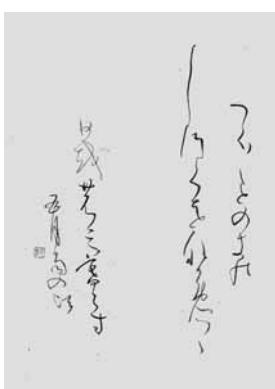


漢字条幅部 師範 名取 美紘
手慣れた運筆が澄明な筆線に輝きを生み、美しい余白に酔いしれる見事な作に仕上がる。

◎漢字条幅部總評 各社中の特徴を生かしながらも個々の研究を深め紙面展開の自在さがあつてもよかったです。（石雲評）

かな部 師範 櫻田 龍貞
澄明な線が美しい。紙面に対してもバランスも美事につかんでいます。是非独自の世界を探りたい。

◎かな部總評 概ね調和のとれたかな遣いと、徒の認識不足散見。かなの線は太細が大切。（洋子評）



漢字部 師範 田中 岳舟
木簡隸書の冴えのある筆線で魅力的な作品。構成巧みで筆力充実。心豊かな筆者ではなかろうか。

◎漢字部總評 全般に、磨かれた線質が多かった。創作する上での造形・線質は、日頃の古典の勉強が必要不可欠です。（藤扇評）

实用書優秀作品

選評 岩垣若翠

◎ 実用書部総評

丁寧な運筆の作品が多く、改めて文字の美しさの追求だけに止まらず、相手に「気持ちを伝える」大きさを感じることが出来ました。
(若翠評)

特選 金城智子
清澄な線条と丁寧な運筆が見事。
かなと調和し明るい作となつた。

水無月 夏至 茨城県 埼玉県
水無月 夏至 茨城県 埼玉県
長らく無沙汰いたし申し訳ありません
長らく無沙汰いた申訳ありません

特選 金城智子

特選 井ノ口 春峰
筆圧、抑揚の変化に富み、大らか
で自然な流れが心地よい。

水無月 夏至 茨城県 埼玉県
水無月 夏至 茨城県 埼玉県
長らく無沙汰いたし申し訳ありません
長らく無沙汰いたし申し訳あひません

大作の部



大庭幸石書

前衛書

(大抽社)

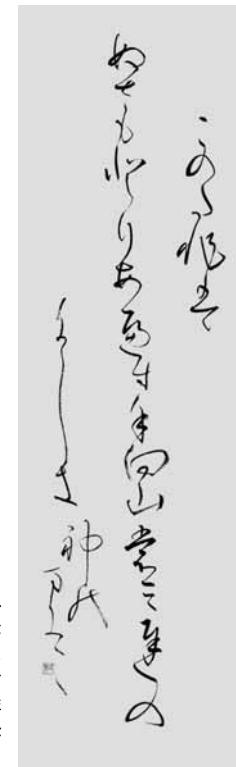
大庭幸石 「明日への誘い」

180×60cm

◆ 中心を貫通する
厳しい線が書き合
い新鮮な作風になっ
ている。下部の飛
沫が余白を活かし
心地よい。

(仙草評)

(奥田)
かな
三宅直美
「このたびは」



三宅直美書

(大抽社)

三宅直美
「このたびは」

160×45cm

◆ 字粒の変化を
つけながら伸び
やかに紙面を支
配して快い。藏
鋒を意識すると
中央の行がさら
に高まるか?

(明子評)

臨書 (紅瑠)
相澤敦子
「薦季直表」

先帝神略奇計委任得人深山窮谷民獻米豆
道路不絕遂使強敵喪膽我衆作氣旬月之間
廓清蟻取當時實用故山陽太守開内唐季直
之策魁期成事不差蒙髮先帝賞以封爵授以
刺郡今直罷任旅食許下素為庶吏衣食不充
臣愚欲望聖德錄其宿勲矜其老困復俾一州
受國家異恩不敢雷同見事不言
敦子臨

相澤敦子臨

135×70cm

◆ 紙面の行間に
ゆったりとした
雲烟気が漂う。
原帖をよく観察
し厚味のある線
を見事に表現し
た堂々の作。

(菜扇評)

市川紫泉
「吉野鉢二の歌」



市川紫泉書

60×180cm

現代詩文書
(八戸)

創作の部

漢字 - 3点
かな - 10点
現代 - 9点

前衛 - 18点
漢字 - 15点
かな - 3点

漢字の部(18点)

総出品点数
58点

〔特選候補者〕
〔創作の部〕

〔漢字〕

〔前衛〕

〔現代詩〕

〔玄穹〕

〔高橋〕

〔蒼香〕

〔藤象〕

〔溪姫〕

〔琴舟〕

〔成山〕

〔畠中〕

〔佐藤〕

〔阿部〕

〔秀恵〕

〔廣田〕

〔月華〕

〔東総〕

〔薄田〕

〔紅瑠〕

〔千葉〕

〔竹浪〕

〔土氣〕

〔杉田〕

〔紅瑠〕

〔浅野〕

〔金井〕

〔和子〕

〔千晶〕

〔雅成〕

〔美美〕

〔翠玉〕

〔紫悠〕

〔春晶〕

〔舟絪〕

〔和子〕

〔春絪〕

〔和子〕

(石雲評)

◆ 線の太細、墨の潤渴を駆使し
瀟洒な文字造形と構成で現代
感覚溢れる作に仕上げられて
いる。ただ、読づらさあり。

清月 境野 和子

〔漢字の部〕

〔かな〕

かな研究部
(高野切第一種)

選評 奥田瑞舟

今月のホープ作品



苗代佳恵

◎かな研究部総評

高野切第一種の中でも取り入れたい要素の多所であり、全体に密度濃く臨書されていた。読む人の「ふ(不)ぢはらの:」の不(ふ)が者(し)になつた作品が多く見られ残念に思いました。

かな研究部 特選 苗代佳恵

花堺京文

橋

木

佳川

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

[特別昇段級試験参考手本]

お知らせ

秋の特別昇段級試験の課題手本（創作作品）を掲載いたしました。参考にして下さい。

（編集部）

漢字部

第二種

◇創作・楷書



松潭月色涼（まつたんづきいろよる）

（玉賀）

漢字部

第三種

◇創作・行書



樹
苔
○○書

かな部

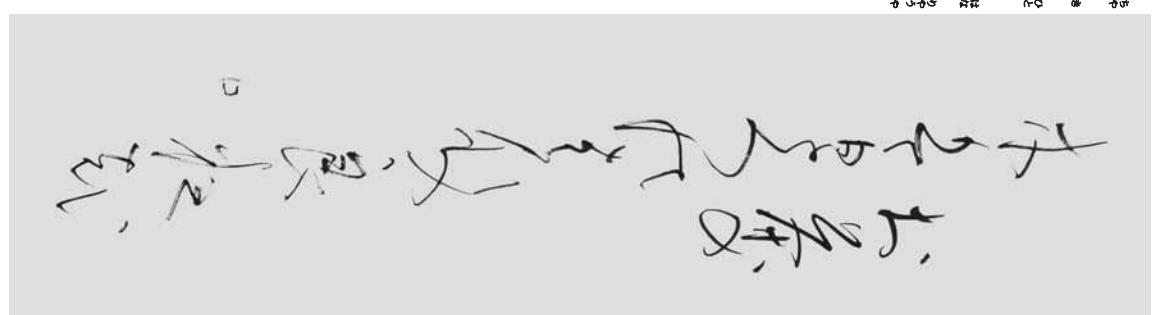
第二種

◇創作（和歌）

鳥棲紅葉樹
(鳥は棲む紅葉の樹。月は照らす青苔の池)

（白居易）

白魚の移ろふ群のひとながれ初秋の雲の空にすずしさ
よみ方 白(こう)魚(うき)の移(うつ)る群(ぐん)のひとな(な)がれ(れ)
れ(れ)初(はつ)者(し)徒(徒)秋(あき)の雲(くも)の空(そら)にす(す)ず(す)さ
(北原白秋)



第一種 ◇ 創作 (草書)

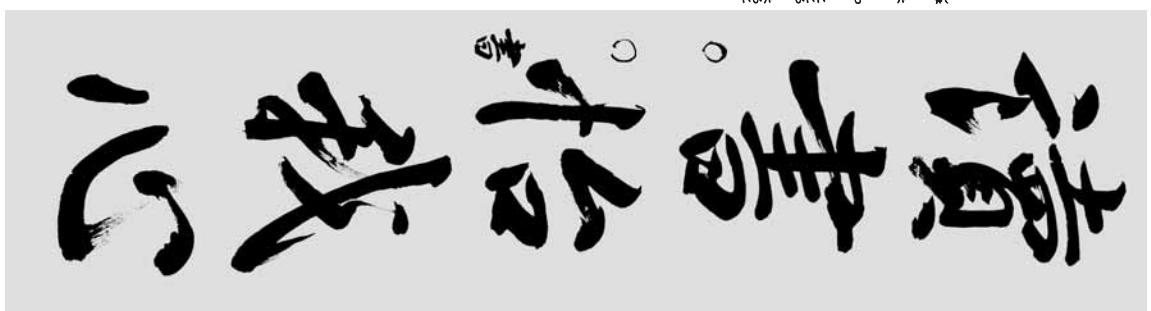
かな条幅部

(柳色輕秋雨暗花香時爲好風來) (張宛丘)



第二種 ◇ 創作・行書

(書怡我心) (井原宣)



(書怡我心) (井原宣)



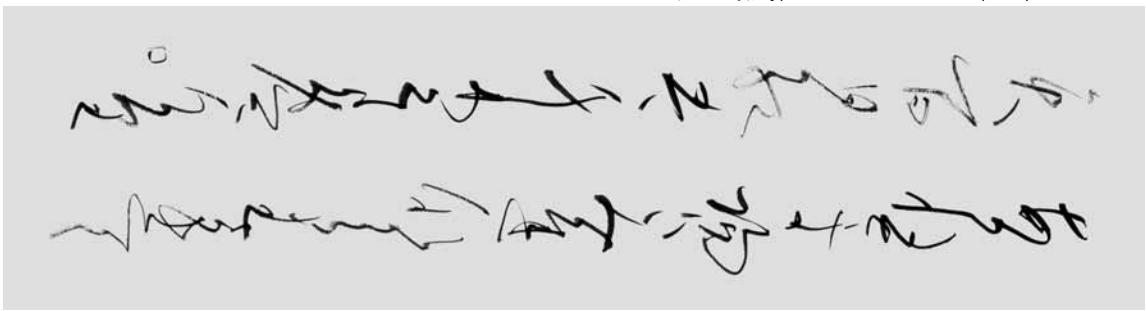
第一種 ◇ 創作 (行書または楷書) (井原宣)

漢字条幅部

<行書>

<楷書>

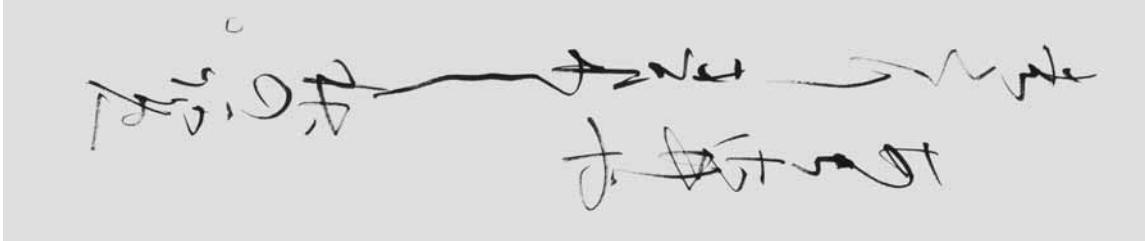
(四) 豊田市立豊田中学校 (豊田市立豊田中学校) (豊田市立豊田中学校)



創作 ◇

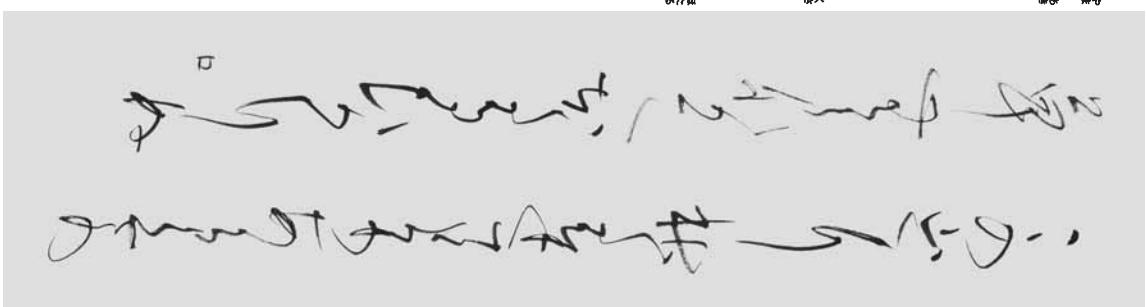
よみ方 紫陽花(あざき)や青に(耳)きま(万)り(利)し秋の雨(阿免)

(規子岡)



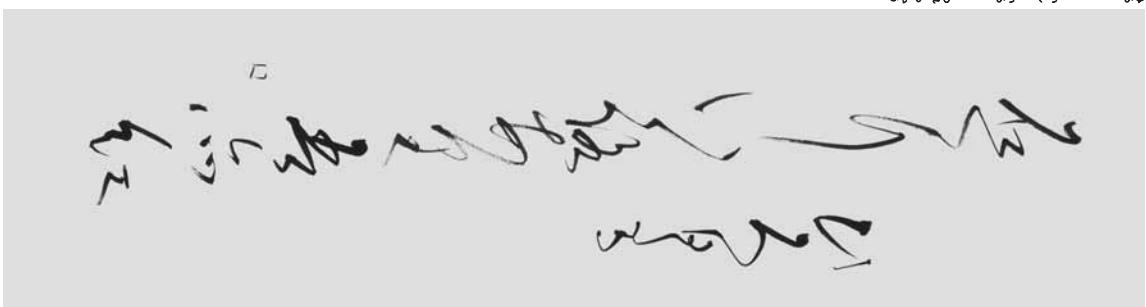
第三種 ◇ 創作(俳句)

（마）
（母）



◇ 創作和歌

新羅王室的國寶，是新羅國王的御用器皿。



第三種創作 ◇

◇楷書

太宗の温泉銘は、筆を自在に抑揚させ、皇帝らしい氣宇の大きな書である。現在その拓本はフランス国立図書館に収蔵されている。○○書

◇行書

太宗の温泉銘は、筆を自在に抑揚させ、皇帝らしい氣宇の大きな書である。現在その拓本はフランス国立図書館に収蔵されている。○○書

◇草書

太宗の温泉銘は、筆を自在に抑揚させ、皇帝らしい氣宇の大きな書である。現在その拓本はフランス国立図書館に収蔵されている。○○書

第一種	楷書	(1枚)
第二種	楷・行	(計2枚)
第三種	楷・行・草 (計3枚)	

太宗の温泉銘は、筆を自在に抑揚させ、皇帝らしい氣宇の大きな書である。現在その拓本はフランス国立図書館に収蔵されている。○○書

※臨書作品は、7月号(735号)の50~55ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

※昇段級試験課題手本についての「昇試相談」は、今後中止といたします。

※作品締め切りは9月15日(木)です。

(編集部)

書

展

第38回 白玄会書展

野口加奈

会期＝令和4年7月8日(金)
～11日(月)
会場＝高崎シティギャラリー

銘を受けながら楽しく拝見しました。
古典の研究をはじめとして幅広く目標を据えて研鑽を積まなくてはならないと気持ちを新たにさせられました。良い勉強の機会をいただいたことに感謝し、白玄会の皆様の今後ますますのご活躍を祈りつつ会場を後にしました。

少し暑さの和らいだ7月10日、三森慧香先生とともに墨象(前衛書)を活動の主体とする白玄会書展を訪問しました。高崎シティギャラリーに入ると、会長の金井如水先生はじめ、社中の先生方に笑顔でお迎えいただき、華やかな会場へと進みました。

まず、白玄会創設者の山本聿水先生の優美な遺作「申」に魅了されました。その雰囲気に白玄会の精神を感じました。今回は61名のみなさんが、墨象だけでなく、漢字、かな、近代詩文書作品など多彩な作品を発表されていました。特に練度の高い臨書作品の多さに驚かされました。前衛書の基本に古典臨書があることを確信しているかのような意欲的な作品の数々に圧倒されました。



広くて明るい会場



理事による小作品コーナー テーマ「挑(いどむ)」

〈月例競書 級位の方へお願ひ〉

毎月の出品時、昇級調査を必ず行って下さい。調査が済んでいない場合は出品券に現在の級を記入し、その上の余白に赤で未調査と明記して下さい。よろしくお願ひいたします。
(編集部)



◇夏季休暇のお知らせ◇

本年の夏季休暇は

8月12日(金)～16日(火)とさせていただきます。
よろしくお願ひいたします。

公益財団法人 書道芸術院

